

中学校学力調査

(1) 実施状況及び集計結果

【中学校調査】 実施校数 96 校 中学校第2学年

実施生徒数

学力調査Ⅰ	8,661名
学力調査Ⅱ	8,653名
学習状況調査	8,660名

正答率

分類	区分	県平均正答率(%)
学力調査全体		50.4
出題形式別	選択	69.3
	短答	48.6
	記述	32.4
学力調査Ⅰ	国語	68.1
	数学	46.3
学力調査Ⅱ	大問1	30.0
	大問2	31.0

問題別正答率

学力調査Ⅰ 国語	出題 形式	知識・ 技能	活用	出題のねらい	正答率 (%)	
1	一	選択	●	文の中における文節どうしの関係を捉えることができるかどうかをみる。	58.6	
	二	記述		●	話の展開に注意して聞き、必要に応じて質問することができるかどうかをみる。	62.5
	三	選択	●		比喩や反復などの表現の技法について理解しているかどうかをみる。	81.3
	四	選択		●	話すための材料を人との交流を通して集め、整理することができるかどうかをみる。	90.5
2	一	選択		●	段落の役割などを考えて、文章を構成することができるかどうかをみる。	61.8
	二	選択	●		語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことができるかどうかをみる。	97.3
	三	短答	●		文の中における主部を捉えることができるかどうかをみる。	20.5
	四	記述		●	書いた文章を読み合い、根拠の明確さについて意見を述べるることができるかどうかをみる。	80.5
3	一	選択	●		小学校第6学年までに学習した漢字を、文脈に即して正しく書くことができるかどうかをみる。	86.7
	二	記述		●	目的に応じて文章を要約することができるかどうかをみる。	46.8
4	一	短答	●		歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことができるかどうかをみる。	71.8
	二	選択		●	場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解することができるかどうかをみる。	59.4

学力調査 I 数学		出題 形式	知識・ 技能	活用	出題のねらい	正答率 (%)
1	1	(1) 短答	●		一元一次方程式を解くことができるかどうかをみる。	79.2
		(2) 選択	●		一元一次方程式の解の意味を理解しているかどうかをみる。	60.4
		(3) 選択	●		方程式を解く場面における等式の性質の用い方について理解しているかどうかをみる。	67.3
	2	(1) 記述		●	方程式を活用して問題を解決するために、求めたい数量に着目することができるかどうかをみる。	58.7
		(2) 記述		●	方程式を活用して問題を解決するために、問題の中の数量や数量の関係から、二通りに表される数量を見いだすことができるかどうかをみる。	15.5
2	1	選択	●		線対称な図形における、対称の軸の作図について理解しているかどうかをみる。	49.6
	2	記述		●	旗の位置の作図の方法について、用語を用いて説明することができるかどうかをみる。	25.9
3	1	短答	●		表から、 x と y の関係を式に表すことができるかどうかをみる。	56.6
	2	短答	●		関数の意味について説明することができるかどうかをみる。	23.5
	3	記述		●	グラフ上の点Pの x 座標と点Qの x 座標との差の意味について、説明することができるかどうかをみる。	28.0
4	1	短答	●		資料を整理した表から、最頻値を読み取ることができるかどうかをみる。	50.1
	2	(1) 短答	●		資料を整理した表から、範囲を求めることができるかどうかをみる。	38.7
		(2) 記述		●	資料の傾向を的確に捉え、数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる。	48.1

③ 学力調査 II

学力調査 II	教科	出題 形式	探究	思考の場面*			出題のねらい	正答率 (%)
				広	深	組		
1	1	英語	選択	●		●	外国における、水の確保に向けた取組みについて、複数の情報を関連付け、会話の内容を正確に理解することができるかどうかをみる。	72.1
	2	(1) 理科	選択	●	●		ろ過のしくみを粒子のモデルで表している図を、指摘することができるかどうかをみる。	60.1
		(2) 理科	記述	●		●	[g/L]で示された水質基準を、質量パーセント濃度に捉え直すことができるかどうかをみる。	6.0
	3	数学	記述	●		●	比例の関係を基に、5分間の節水量を求める方法を、数学的に説明することができるかどうかをみる。	5.9
4	英語	記述	●		●	ホームページに掲載したいメッセージとして考えた日本語を、簡単な英語の語句や文を用いて、適切な英文で表現することができるかどうかをみる。	6.2	
2	1	国語	記述	●	●		文章と図表との関係を考えながら、インド南部でさらさらなカレーが多い理由を捉えることができるかどうかをみる。	15.9
	2	社会	選択	●		●	インド北西部のラジャスタン州で、小麦やとうもろこしの生産量を増やせた理由を、二つの資料から読み取ったことを基に、判断することができるかどうかをみる。	56.1
	3	社会	記述	●		●	インドで電気自動車の普及に力を入れている理由を、必要な情報を結び付けて考察できるかどうかをみる。	21.1

* 広げながら考える、深めながら考える、組み立てながら考える

(2) 結果の分析

◇…比較的できている点

◆…課題のある点

① 学力調査Ⅰ 国語

結果分析

〈話すこと・聞くこと〉 正答率…76.5%

◇ 話すための材料を人との交流を通して集め、整理することができている。〔1四〕

◆ 話の展開に注意して聞き、必要に応じて質問することに課題がある。〔1二〕

〈書くこと〉 正答率…71.1%

◇ 根拠の明確さについて意見を述べる事ができている。〔2四〕

◆ 段落の役割などを考えて、文章を構成することに課題がある。〔2一〕

〈読むこと〉 正答率…53.1%

◆ 目的に応じて文章を要約することに課題がある。〔3二〕

◆ 場面の展開や登場人物の描写に注意して読むことに課題がある。〔4二〕

〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〉 正答率…69.3%

◇ 表現の技法について理解することや慣用句の意味を理解して文脈の中で使うこと、文脈に即して漢字を正しく書くことができています。〔1三, 2二, 3一〕

◆ 文の中における文節どうしの関係を捉えることや、主部を捉えることに課題がある。

〔1一, 2三〕

指導充実・授業改善のポイント

〈話すこと・聞くこと〉

○ 必要に応じて質問をしながら話を聞くための指導の工夫

- ・ 話を聞く際には、質問の適切な機会を捉えるとともに、自分の考えとの共通点や相違点を整理することを意識しながら、知りたい情報に合わせて質問するように指導することが重要である。例えば、聞き出す意図によって質問の仕方が異なることを確認した上で、テーマに沿って相互にインタビューし合うなどの言語活動を設定し、話し手と聞き手のやり取りを振り返り、適切な質問ができていたかどうかを確認するように指導することが効果的である。

〈書くこと〉

○ 目的や意図に応じて構成を工夫するための指導の工夫

- ・ 文章を書く際には、集めた材料を分類するなどして整理した上で、段落の役割を意識して目的や意図に応じた文章の構成を考えるように指導することが重要である。例えば、「C読むこと」の学習との関連を図り、文章の構成の工夫やその効果について話し合っただけでなく、自分の表現に役立てるなど、段落の役割について意識できるように指導することが大切である。

〈読むこと〉

○ 目的に応じて文章を要約するための指導の工夫

- ・ 文章を要約する際には、文章の構成や展開を捉え、内容を的確に理解した上で、目的に応じて必要な情報を選択し、整理するように指導することが重要である。必要な情報を選択し、整理する際には、必要な情報を過不足なく取り出すことができているかに加えて、どのようにしてその情報にたどり着いたのか、また、どうしてその情報が必要なのかについて検討するように指導することが効果的である。

〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〉

○ 言葉の特徴やきまりについての理解を深めるための指導の工夫

- ・ 言葉が果たす多様な働きや特徴を理解するためには、日常の言語活動を振り返り、言葉の特徴やきまりに気付かせ、言語生活の向上に役立てることができるよう指導することが重要である。「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」及び「C読むこと」の学習との関連を図り、単に知識として学習されるだけでなく、生徒が、日常の話したり聞いたり書いたり読んだりする場面に生かすことを意識しながら学習できるようにする指導を工夫することが重要である。

② 学力調査 I 数学

結果分析

〈数と式〉正答率…56.2%

- ◇ 簡単な一元一次方程式を解くことが概ねできている。[1] 1 (1)]
- ◆ 一元一次方程式の解の意味についての理解に課題がある。[1] 1 (2)]
- ◆ 式変形と移項の対応についての理解に課題がある。[1] 1 (3)]
- ◆ 方程式を活用して問題を解決するために、求めたい数量に着目することや、問題の数量や数量の関係から、二通りに表される数量を見いだすことに課題がある。[1] 2 (1), [1] 2 (2)]

〈図形〉正答率…37.8%

- ◆ 線対称な図形における、対称の軸の作図についての理解に課題がある。[2] 1]
- ◆ 具体的な場面における、作図の方法について、用語を用いて説明することに課題がある。[2] 2]

〈関数〉正答率…36.0%

- ◆ 表から、 x と y の関係を式に表すことに課題がある。[3] 1]
- ◆ 関数の意味について説明することに課題がある。[3] 2]
- ◆ グラフ上にある、2点の x 座標の差の意味について説明することに課題がある。[3] 3]

〈資料の活用〉正答率…45.6%

- ◆ 資料を整理した表から、最頻値を読み取ることや、範囲を求めることに課題がある。[4] 1, [4] 2 (1)]
- ◆ 資料の傾向を的確に捉え、数学的な表現を用いて説明することに課題がある。[4] 2 (2)]

指導充実・授業改善のポイント

〈数と式〉

- 方程式の解の意味を正しく理解することができるようにする指導の充実
 - ・ 方程式の学習では、方程式を解く過程やその結果を確認する活動を取り入れ、等式の性質に基づいて解を求めることができるようにすることが大切である。その際、方程式の解の意味については、方程式を成り立たせる文字の値であるという事実的な知識として覚えているだけにとどまらないようにし、より概念的な理解ができるように授業改善を図る。
- 一元一次方程式を具体的な場面で活用し、問題解決することができるようにする指導の充実
 - ・ 具体的な場面における問題を、方程式を活用して解決するための方法を理解するとともに、解決過程を振り返り、得られた結果を意味付けたり活用したりしようとする場面を設定することが大切である。

〈図形〉

- 作図の方法を見いだして、図形の性質や関係に基づいて説明することができるようにする指導の充実
 - ・ 作図の見通しや作図の方法について、数学的な表現を用いて筋道立てて説明することを通して、論理的に考察し表現する活動を充実することが大切である。

〈関数〉

- 様々な事象の考察を通して、関数の意味を理解することができるようにする指導の充実
 - ・ 事象の中にある二つの数量の変化や対応の様子を調べ、それらの関係を見いだす活動を通して、関数の意味を理解できるようにすることが大切である。その際、独立変数と従属変数との違いを意識して、「…は…の関数である」と表現できるようにすることが大切である。
- 数学的に表現したことを事象に即して解釈することができるようにする指導の充実
 - ・ 関数を用いて具体的な事象を捉える場面において、表、式、グラフで表された事象を、事象に即して解釈する活動を充実することが大切である。

〈資料の活用〉

- 資料の傾向を捉えて、批判的に考察し判断した理由を、数学的な表現を用いて説明することができるようにする指導の充実
 - ・ 代表値を求めたり、データの分布の様子を読み取ったりする場面を設定し、その傾向を捉えて、批判的に考察し判断できるようにすることが大切である。

③ 学力調査Ⅱ

結果分析

- ◇ 考察の視点が示されている場合において、複数の情報を関連付けて事象を捉えることが概ねできている。〔1〕1, 〔1〕2 (1), 〔2〕2〕
- ◆ 各教科で身に付けた知識及び技能を, 他教科等や日常生活の課題解決の場面で活用・発揮することに課題がある。〔1〕2 (2), 〔1〕3, 〔1〕4, 〔2〕1, 〔2〕3〕
- ◆ 課題を解決する際に, 目的に応じて情報を精査し考えを形成することに課題がある。〔1〕2 (2), 〔1〕3, 〔2〕1〕
- ◆ 課題に対する自分の考えを表現する際に, 適切な表現を用いたり根拠を明確にしたりして, 分かりやすく伝えることに課題がある。〔1〕4, 〔2〕3〕

指導充実・授業改善のポイント

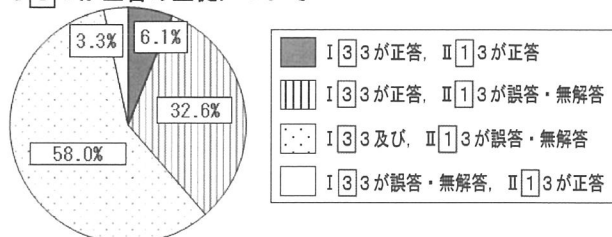
- ・ 各教科で身に付けた知識及び技能を, 他の単元や他教科等で繰り返し活用・発揮する場面を意図的に設定する。
- ・ 整理・分析において, 問題状況における事実や関係を把握し理解したり, 多様な情報にある特徴を見付けたりするなどの学習活動の充実を図り, より深い分析や確かな根拠付けが行えるようにする。
- ・ 相手意識や目的意識を明確にしたり, 伝えるための具体的な方法を身に付けるとともに, その方法を目的に応じて選択して使ったりすることなどを通して, 自分の考えを明らかにし, 他者に分かりやすく伝える学習活動の充実を図る。

(3) 学力調査Ⅰ・Ⅱのクロス分析【数学】

関連を図った問題における結果について

設問番号 (知識・技能・活用・探究の別)	I〔3〕1 (知識・技能)	I〔3〕3 (活用)	II〔1〕3 (探究)	全体に占める割合 (%)
正答 誤答・無解答 の組合せ	正答	正答	正答	3.4
	正答	正答	誤答・無解答	18.4
	正答	誤答・無解答	誤答・無解答	32.8
	正答	誤答・無解答	正答	1.9
	上記以外の組合せ			43.4
正答率 (%)	56.6	28.0	5.9	

I〔3〕1が正答の生徒について



学力調査Ⅰ〔3〕1とⅠ〔3〕3, 及び学力調査Ⅱ〔1〕3で正答している生徒の, 学力調査Ⅱの平均正答率は62.0%であり, 全生徒の, 学力調査Ⅱの平均正答率30.4%を上回っている。

結果分析

- ・ 学力調査Ⅰ〔3〕1において, 表から, x と y の関係を式に表すことができた生徒のうち, 〔3〕3において, グラフ上に表されたことを, 事象に即して解釈できた生徒は38.7%である。さらに, 学力調査Ⅱ〔1〕3において, 問題解決の方法を, グラフや比例の関係をを用いて説明できた生徒は6.1%である。比例・反比例の関係をを用いて具体的な事象を捉え, 考察し表現することに課題がある。

指導充実・授業改善のポイント

- ・ 数学を活用して問題を解決する活動を, 各学年の様々な内容において取り入れ, 日常的な事象の問題を数学の世界で考察することのよさを実感できるようにする。
- ・ 問題解決の過程を振り返り, 見通した際に立てた方法と, 問題解決に用いた方法とについて比較・検討するなどの振り返りの場面を, 意図的・計画的に設定する。